

313 骨シンチグラムにおける Emission CT の有用性について

滋野長平, 藤田 透, 向井孝夫, 福永仁夫, 山本逸雄, 土光茂治, 森田陸司, 鳥塚莞爾(京大, 放核)

骨シンチグラムでの, Single Photon Emission CTの有用性について臨床的検討を行なった。 $^{99m}\text{Te-MDP}$ 20mCi 静注投与3時間後に, 回転性ガンマカメラ(maxi-400-T, GE社)により横断断層像を得た。カメラは64方向から data 収集し, コンピューター(PDP-11/60, DEC社)により各 section の画像(transaxial, frontal, sagittal)再構成が行なわれた。acquisition timeは10~15分, slice巾は1.2cm, 再構成時間は50秒, 解像力は1.5~1.8cmであった。骨シンチグラムにおける通常のイメージングでは, 病変の発見及び局在部位の指摘が困難であった症例について, ECTを用いて検討した。骨肉腫で, 肺転移が疑われた症例では, 通常の骨シンチグラムにて右前胸部にRIの異常集積が認められたものの, その部位(胸腔内か否か)については明確な情報を得ることができなかった。ECTの結果, 前胸壁に近接した胸腔内に, RIの異常集積のあることが確認され, 骨肉腫の肺転移と診断された。その他, 頭部, 骨盤部などのシンチグラムの分析に有用と思われた。

314 GE Maxi Camera 400 T による腫瘍ECTの検討

福永仁夫, 藤田 透, 滋野長平, 玉木長良, 向井孝夫, 森田陸司, 鳥塚莞爾(京大, 放核)

^{67}Ga による腫瘍シンチグラフィの撮像に, GE Maxi-Camera 400 Tを用いてECTを行なった。counting timeは10~15分, slice巾は1.2cm, ECT再構成時間は1 slice当り50秒であった。

^{67}Ga 2 mCiを投与し3日目に通常の腫瘍イメージを得た後, 縦隔部の非特異的集積や大腸内への ^{67}Ga の排泄と真の異常集積との鑑別が困難な症例について, 引き続きECTを施行した。

特にECTが有用であった症例は, (1) 肺癌で下部胸椎に骨転移を認めた症例。骨シンチでは下部胸椎にはhot spotを認めず, ^{67}Ga 腫瘍シンチでは背部に強い異常集積があり, ECTにより正確な病変部位が明らかになった。(2) 乳癌の肺, 皮膚転移例。通常の ^{67}Ga 腫瘍シンチグラフィでは, 皮膚転移への異常集積は明らかであったが, 肺転移巣への集積は分らず, ECTにて異常集積が認められた。